

水道・工業用水道・下水道の民営化を進めつつある宮城県

みやぎ型管理運営方式の区域図

村井 嘉浩知事が推進



みやぎ型管理運営方式 対象9事業

(事業区域が重なる、水道用水供給2事業、工業用水道3事業及び流域下水道4事業)

○水道用水供給事業 (2事業)

大崎広域水道事業
仙南・仙塩広域水道事業

○工業用水道事業 (3事業)

仙台北部工業用水道事業
仙塩工業用水道事業
仙台圏工業用水道事業

○流域下水道事業 (4事業)

仙塩流域下水道事業
阿武隈川下流流域下水道事業
鳴瀬川流域下水道事業
吉田川流域下水道事業

○流域下水道事業 (3事業)

北上川下流流域下水道事業
追川流域下水道事業
北上川下流東部流域下水道事業

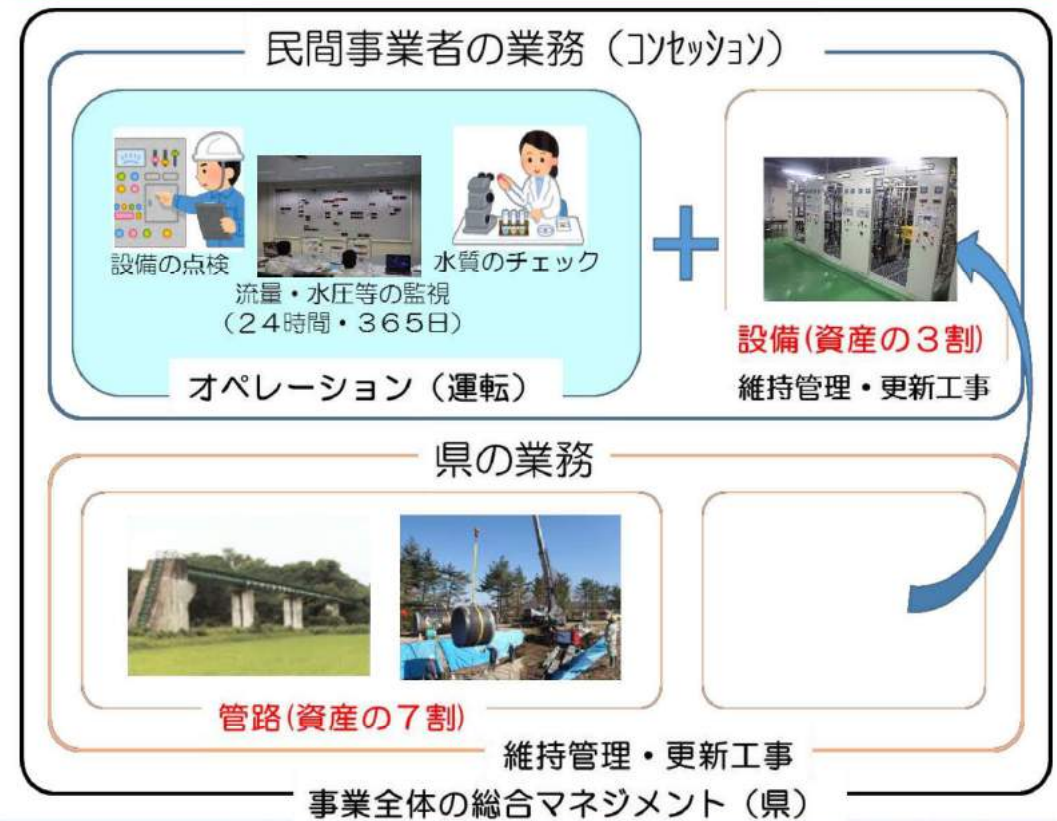
みやぎ型管理運営方式（案） 現状との違い

【現状】

- **短期** : 業務期間4～5年
民間事業者における従業員の雇用が不安定、人材育成が困難
- **小規模** : 各事業を個別に委託しており、スケールメリットの発現効果が少ない
- **限定的** : 受委託の関係から行政が決定権を持ち、民間ノウハウの活用が限定的

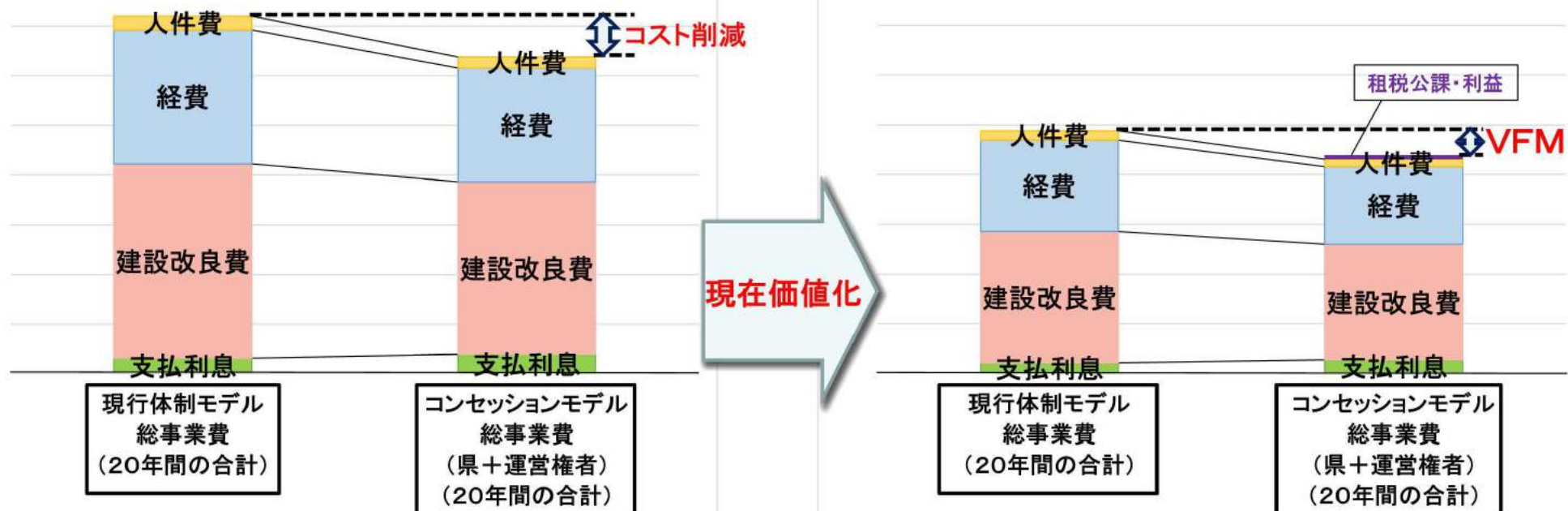
【みやぎ型】

- **長期** : 期間20年
民間事業者における従業員の雇用の安定、人材育成、技術継承・革新が可能
- **包括化** : 上・工・下3事業一体によるスケールメリットの発現効果が拡大
- **官民協働** : コンセッションにより、民間ノウハウの自由度が拡大



『みやぎ型』で期待される効果

- 『みやぎ型』を導入することで、維持管理にかかる費用や設備等の改築にかかる費用の**コスト削減**が期待されています。
- これによって、**料金上昇の抑制**や**経営の安定化**の効果が期待されています。



【現行体制モデルとコンセッションモデルの総事業費を比較】

コスト削減額: 335億円～546億円

【コスト削減額を現在価値に換算，租税公課・利益を控除】

**VFM: 166億円～386億円
(7.4%～14.4%)**

※上記数値は、導入可能性等調査に基づき県が試算した期待値であり、実際のコスト削減額及びVFMは、運営権者となる民間事業者からの提案により確定する。

VFM (バリュー・フォー・マネー)

VFM = (コスト削減額 (現在価値換算後)) - (租税公課) - (利益)